

中小零細企業の状態

財務省 財務総合政策研究所発表資料から

法人企業統計調査結果(平成21年度) 第3表 売上高利益率の推移

<http://www.mof.go.jp/pri/reference/ssc/results/h21.pdf>

「売上高営業利益率は2.0%(前年度1.9%)となり、売上高経常利益率は2.3%(前年度2.4%)となった。

売上高営業利益率を業種別で見ると、製造業では1.5%(前年度1.5%)となり、非製造業では2.2%(前年度2.1%)となった。

売上高経常利益率を業種別で見ると、製造業では2.4%(前年度2.3%)となり、非製造業では2.3%(前年度2.4%)となった。」

分析

どうも利益の上がらない収益構造そのものが資本1000万円未満の企業の最大の課題のようだ。金利上昇などの不測の事態になればあっという間に利益など吹っ飛んでしまうのは明白だ。これらの企業は生業である事業から派生する新たなビジネスの創造をせずに何とかやってこれただけにすぎない。

中小零細企業の社員は企画から事業計画、利益確保の立案など経験すらない。言われたことだけをこなし一日が終わるだけの体質が社員どころか経営者すら染み付いている。それは社員に対する教育、ファイナンス感覚を養ってこなかったことによるし、経営者が声なき声を吸い上げる体質になっていないことが最大の問題だ。

中小零細企業の強みを経営者以下、再確認する必要がある。

大手にはないスピードで舵取りが行えるのが中小零細企業の強みだ。

全くの異業種ではなく生業から派生する産業への試みで利益率向上を図ることを経営者以下、全社員の目標としなければならない。

従来のビジネスモデルだけでは絶滅危惧種リストに名を連ねる中小零細企業が増加する。

Pals solutions -report1

分析官 石栗 康春